



わたしたちの「やまがた緑環境税」

山形県の72%を占める森林は、私たちの住む平野や盆地を包み込むように分布し、山形の素晴らしい自然環境を支えています。県では、平成19年4月から「やまがた緑環境税」を導入し、この豊かな緑を、県民共有のかけがえのない財産として未来へ引き継ぐための事業を展開しています。

わたしたちの暮らしを守る！森の大切な働き

森には、雨水を蓄えて洪水や漏水を緩和したり、土砂の流出や山崩れを防いだり、また、大気中の二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防止するなど、わたしたちの暮らしを支えてくれる大切な働きがあります。



- 生き物を育む
- 空気をきれいにする
- 豊かな水を育む
- 災害を防ぐ
- 木材を生産する

でもこのままだと…森の危機はみんなの危機！

今、間伐などの適切な手入れがされずに、荒れている森が増えています。取り返しのつかない状態まで森が荒れてしまうと、森の再生には非常に長い年月がかかります。このままだと、森によって守られてきたわたしたちの暮らしが、そして未来が危ない！今こそ森づくりに取組む必要があります。



そこで…「やまがた緑環境税」を活用した県民みんなで支える森づくり！

やまがたの豊かな緑を、かけがえのない財産として未来へ引き継ぐため、平成19年度から「やまがた緑環境税」を活用し、「県民みんなで支える新たな森づくり」に取り組んでいます。



これまでの取組みとこれからの使いみち

「やまがた緑環境税」は、5年を目処に見直すことにしており、平成23年度に、これまでの取組みの結果や県民の皆さんとの意見交換などを踏まえ、「やまがた緑環境税」でその内容の検討を行いました。

第1期（平成19～23年度）の取組み ◆ 荒廃森林の整備や多くの県民参加による森づくりが進みました。

1 平成19～23年度 2,406百万円 荒廃が進んでいる森林の整備に取組みました。

- スギ人工林を広葉樹が入り混じった森林へ整備しました。
- スギ人工林をいろいろな樹齢からなる森林へ整備しました。
- 病害虫などで荒廃した里山林を再生しました。



1-2 森林資源の循環利用の促進に取組みました。

- 森林整備によって発生した利用可能な間伐材の抽出支援を行いました。



①② 荒廃が進んでいる森林の整備 2,406百万円

税の使いみち

※H23は見込み



2 平成19～23年度 636百万円 県民参加の森づくり活動の支援に取り組みました。

- NPO、ボランティア団体等や市町村が行う森づくり活動の取組みを支援しました。
- 野生動物の保護事業など自然環境保全の対策に取り組みました。
- 自然環境学習や森に親しむ環境づくりに取り組みました。



3 平成19～23年度 114百万円 PR活動や効果検証に取り組みました。

- 森の感謝祭等の開催
6月第1土曜日は、「やまがた森の日」
- 森づくり活動を総合的にサポートする機関を設置しました。
- やまがた緑環境税活用事業の評価・検証を行いました。



第2期（平成24～28年度）の取組み ◆ みんなで森づくりを支え、かけがえのない森を未来に贈ります。

荒廃森林の整備

1 荒廃が進んでいる森林の整備を推進します。

- スギ人工林を広葉樹が入り混じった森林へ誘導します。
- スギ人工林をいろいろな樹齢からなる森林へ誘導します。
- 病害虫などで荒廃した里山林を再生します。

ナラ枯れなどで荒廃した森林などを整備対象に新たに追加します。

荒廃森林の整備

1-2 森林資源の循環利用を拡大します。



間伐材のバイオマス利用を拡大します。

県民参加による森づくり

2 森づくりや自然環境の保全活動などの取組みを支援します。

- 一般県民による森づくり
- 市町村が進める森づくり など

- 新設したテーマにかなった先駆的な取組みを支援します。
- 地域住民と協働による森づくり活動を計画的に進めます。
- 企業による森づくりを進め、地域を元気にします。

普及啓発や効果検証など

3 県民みんなで支える新たな森づくりの気運を高めます。

- 森づくり行事の開催
- 税事業のPR及び効果・検証
- 森づくり支援センターによる技術支援

- やまがた緑環境税の理解を深める取組みを強化します。
- 森づくりの支援体制を強化します。